

心強い仲間の支え

雪が解けると、いよいよホース等の器具を使つての訓練が加わり、6月には訓練の拠点を上川河川敷のテニスコートに移し、実際の競技会場に近いコンディションでの訓練が始まりました。

大会まで半年に迫り、選手たちの訓練にも熱が入りますが、ここで壁にぶつかります。タイムが安定せず、思うように伸びないのです。

速さと正確さが求められる操法。タイムが伸びない原因は何か。細かい部分の動きを確認するため、選手たちは重いホースを肩にかつぎ、コース上を何往復も走りました。

出場選手以外の団員も、選手が使つたホースを巻き直したり、選手が自身の動きを確認するためのビデオを撮影したりと、練習日には毎回、分団ごとに交代して会場に訪れ、選手たちをサポートしました。

「まだ無駄な動きがある」「足がそろわない理由は、ひざの角度ではないか」

指導員や応援に駆け付けた団員のアドバイスで、自分では気付かなかつた改善点に気付くことができ、伸び悩んでいた選手たちに、再び活力が戻りました。

そして大会当日

11月8日、大会当日。

会場は、東京臨海広域防災公園。

本番前、大会会場で入念に確認したのは、何度も練習した基本動作でした。

この1年間が、たった5分ほどの一発勝負で決まる。

緊張した様子の選手たちを、山形から応援に駆け付けたたくさんの人たちの声援が勇気づけました。

そして、いよいよ本番。

選手たちは、大声援を背に、全国大会という大舞台で全力を尽くしましたが、結果は、惜しくも入賞には届かず敢闘賞。

これまでの思いと悔しさからか、競技を終えた選手の目には涙が浮かんでいました。

それでも、1年にわたる厳しい訓練に耐え、山形県代表というプレッシャーに負けず最後まで精一杯頑張った選手たち。

駆け付けた応援団からは、選手たちを称えるようにいつまでも大きな拍手が贈られていました。



繰り返し、動作を細かく確認する選手たち

癖を直すことの難しさ

9月半ば、選手たちを再び悩ませたものがあります。

これまで訓練を重ねた分だけ、知らず知らずのうちに各選手に様々な癖が染みついていた。消したくてもなかなか消せない癖が、選手たちを苦しめました。

それでも、大会は日に日に迫ってきます。

選手たちは、焦る気持ちを抑え、初心に戻り動作を細かく確認すること、さらに練習量を増やすことで、再び壁を乗り越えようとしていました。「何としても、自分たちが納得できる操法を完成させたい」という思いが、選手を奮起させ、次第に完成度を増していきました。

全員の目標はただ一つ

10月に入ると、日に日に空気は冷たくなり、吐く息は白くなりました。大会まであと1か月。これまで厳しい訓練に耐えてきた選手たちの体には疲労が蓄積し、限界が近づいているようでした。膝や足くびを痛め、訓練の合間にマッサージを受ける光景も目にするようになりました。

それでも選手たちは、お互いに励まし合い、また、気付いた点は遠慮なく指摘し合い、選手全員の心を一つにして同じ目標を見つめていました。

「全国大会優勝」

全員でその目標に向かって迷いなく、一歩一歩前進していきました。



訓練の合間にマッサージを受ける選手

ご声援ありがとうございました！



秋葉団長より

去る11月8日、東京臨海広域防災公園で開催された「第24回全国消防操法大会」ポンプ車操法の部に、山形県の代表として参加いたしました。当日、多くの町民の皆様から会場まで応援に駆け付けていただき、ご声援と激励を賜り、厚く御礼申し上げます。



消防団長 秋葉憲太郎

結果は上位入賞はなりませんでした。大会までの1年間、『一致団結』の精神で総力をあげて挑めたことが最大の成果であり収穫です。この貴重な体験は、団員の心に深く刻み込まれ、今後の活動の宝になることと確信しております。

今回の大会に向け、ご尽力いただきました関係者各位並びに町民の皆様にご心より御礼申し上げますとともに、今後とも消防団活動にご理解とご協力をお願いいたします。

大会結果報告

11月10日、秋葉団長と指揮者の今野勝敏さんが役場を訪れ、森谷副町長に大会結果について報告を行いました。

森谷副町長は、出場選手や指導員等協力者の尽力に敬意を表し、「今回は入賞に至らず残念であったが、消防団の本来の役割は、火災発生時における消火活動や災害発生時における防ぎよ活動などである。大会は終わったが、平常時においても、引き続き訓練に励んでほしい」と激励しました。

